

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	54	学校名	茨城県立竜ヶ崎第二高等学校						課程	全日制		学校長名	細矢 英三			
教頭名	若林 美穂						事務(室)長名	近藤 大介								
教職員数	教諭	29	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	6	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	4	技術職員等	4	計	51
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	34	46	37	41	34	40			105	127	6				
	商業科	26	14	19	20	18	16			63	50	3				
人間文化科	3	37	3	38	3	37			9	112	3					

2 目指す学校像

持ち味を活かし、より良い社会、学校のつくり手の育成を図るため、以下の項目を重点とした学校づくりを行う。

- 普通科・商業科・人間文化科の各学科の専門性と学科を超えた多様な交流の融合
- 失敗を学びの糧にする風土の醸成
- 学びのフィールドを学校の外に拡張

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<p>「自ら考え、自らを律し、よりよい社会のつくり手となる」</p> <p>本校を卒業するまでに、以下の資質・能力を身に付けることを目指す。</p> <p>【自主自律の精神】</p> <p>既存の正解を求めるだけでなく、自ら問いを立て、自らの意志で行動を律することができる。</p>
---------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>【多角的な視点と創造性】 専門性（縦の糸）と他者との交流（横の糸）を織り合わせ、多様な価値観を認め合いながら新しい価値を創造できる。</p> <p>【レジリエンス（しなやかな強さ）】 失敗を「自分をアップグレードする学び」と捉え、試行錯誤を楽しみながら困難を乗り越えていくことができる。</p> <p>【自己実現の意志】 自分の人生に自ら意味を与え、過去の経験を糧にしながら、よりよい未来を切り拓く強い意志を持つ。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）</p>	<p>「専門性と多様性が交差する、実践的な学びの場の提供」 グラデュエーション・ポリシー達成のため、以下の教育活動を展開。</p> <p>【3学科併設を生かしたクロスオーバー学習】 普通科・商業科・人間文化科の各専門教育（縦の糸）を深めつつ、学科を超えた交流や共同プロジェクト（横の糸）を通じて、多角的な視野を養うカリキュラムを編成。</p> <p>【「失敗を恐れない」探究型学習】 試行錯誤を推奨し、「なぜ？」を深掘りするプロセスを重視した授業を展開。改善点を見出す力を育むための評価体系を構築。</p> <p>【地域社会との連携・実践】 教室を飛び出し、地域社会や第一線で活躍する大人たちと協働するフィールドワーク等を積極的に導入し、社会の「つくり手」としての手応えを掴む機会を提供。</p> <p>【キャリア教育の充実】 「人生の意味を自ら創る」ための内省の時間を設け、自己の在り方や生き方について深く考える機会を継続的に提供。</p>

別紙様式 1 (高)

<p>入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>「自らの可能性を信じ、変革を恐れず、共に高め合いたいと願う生徒」 本校は、以下のような意欲や姿勢を持つ生徒を広く受け入れます。</p> <p>【「自主・誠実・努力」への共感】 人から与えられるのを待つのではなく、自ら考え、誠実に物事に取り組み、努力を惜しまない意欲がある人。</p> <p>【多様性への関心】 自分の得意分野を伸ばしたいという熱意を持ちつつ、自分とは異なる背景や専門を持つ仲間からも学ぼうとする柔軟な心を持っている人。</p> <p>【挑戦する勇氣】 失敗を恐れず、新しいことや困難なことに対しても「まずはやってみよう」と思える人。</p> <p>【未来を創る決意】 これまでの経験がどうであれ、「今ここから」の過ごし方で未来を変えたい、自分の人生を自分らしく彩りたいという強い願いを持っている人。</p>
-----------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
<p>学習指導</p>	<p>① 校内のICT教育環境の整備に伴い、ICT機器活用のため、キャンパやロイロノート研修が随時行われた。</p> <p>② 探究的な活動を中心に据え、生徒の課題解決能力を高めるために、総合的な探究の時間を充実させるための方策が求められている。</p> <p>③ AIドリルの活用率向上や授業内容の工夫・改善を行い、生徒の学習意欲を向上させる必要がある。</p> <p>④ 家庭学習に費やす時間が少ない生徒が多い。</p> <p>⑤ 放課後及び長期休業中の課外参加者が少ない。</p>	<p>① ICT教育環境を生かした教育活動を展開するための研修を実施し、ICT機器の活用促進を図る。教科担当者のスキル向上を図る。</p> <p>② 思考力・判断力・表現力を高めるために、総合的な探究の時間の研究や研修を推進する。</p> <p>③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業における言語活動を活発化し、効果的にICTを活用し、授業への参加意識を高める。</p> <p>④ 学校生活等を記録する手帳の積極的な活用により、学習意欲及び学力の向上を図るとともに、家庭学習の定着を図る。</p>

別紙様式 1 (高)

		<p>⑤ 放課後及び長期休業中の課外への参加を促すため、低学年からのキャリア教育の充実を図り、早い段階から積極的な働きかけをする。</p>
<p>進路支援</p>	<p>① 1・2年生の進路意識は、入学時より3年間を見通した進路支援計画を立てることで徐々に向上しつつある。 ② 進学者数は増加傾向にある一方で、専門学校進学を安易に考える生徒も見受けられる。進路意識の向上と先を見据えた進路支援が必要である。 ③ 就職希望者に対する求人票閲覧を Handy で行い家庭でも見られる環境を整えた。就職試験に向けたサポート体制の充実が必要である。</p>	<p>① 第1希望の進路実現を達成するため、将来を見通した3年間の組織的・系統的なキャリア教育体制を構築し、計画的な進路支援を展開する。 ④ 上級学校進学を目指す生徒に対しては、早い段階から手をかけ、外部と連携した進路支援の充実と、長期休業中の効果的な進路支援対策を講じる。 ③ 就職希望者及び保護者に対する面談を充実させると共に、各種資格試験の合格率向上に向け、継続的・実践的な指導を行う。</p>
<p>生徒支援</p>	<p>① 基本的な生活習慣にかかる指導（身だしなみ・あいさつ・清掃・時間を守る）は継続した指導が必要である。 ② 生徒と教員の良好な関係づくりに努め、いじめ問題の早期把握・未然防止を図るための手立てを講じる。 ③ 自転車による交通事故の未然防止のために注意喚起が必要である。 ※原付バイク通学者も同様 ④ SNSによるトラブル等が多発しており、SNS利用のマナーについて理解させる必要がある。 ⑤ 多くの生徒が経済的理由によりアルバイトをしており、学習活動や部活動、進路活動にも影響を与えている。保護者と協力した適切な対応が必要である。</p>	<p>① 遅刻指導や服装指導を徹底し、基本的な生活習慣を確立させる。 ② 定期的な面談と必要に応じた面談、アンケート調査を実施するとともに、定期的に「いじめ防止対策推進委員会」を開催し、生徒の実態把握に努め、全教職員で情報の共有を図る。また、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを活用する。 ③ 自転車・原付バイク通学者に対し、交通ルールの厳守や命の大切さの意識を高揚させるための講習会を実施し事故防止に努める。また、車両点検はもちろんのこと、努力義務化されたヘルメット着用を推進する。 ④ HR・集会・講演会等、機会あるたびに注意喚起をしていく。 ⑤ 経済的事情でアルバイトをする生徒に対しては、学業優先の原則を確認し学校と保護者の協力のもと適切な指導を行う。</p>
<p>特別活動</p>	<p>① 生徒主体の生徒会活動を活性化する方策を講じる必要がある。 ② 部活動の加入率は約4割弱である。昨年度に比べて増加はしたが、年度途中で退部する生徒が多かった。部活動への興味関心を高めるための更なる対策が必要である。 ③ 地域活動への積極的な参加を推進し、地域社会や地元小・中学校及び大学との連携を強化する必要がある。</p>	<p>① 生徒が主体的に企画し行動する生徒会役員並びに実行委員会委員の育成を推進する。 ② 部活動加入率向上に向け、あらゆる機会をとおして部活動への加入の呼びかけや活動実績などの報告により、生徒の興味関心を高める。 ③ 龍ヶ崎市役所や企業、龍ヶ崎小学校及び美浦特別支</p>

別紙様式 1 (高)

		援学校との連携事業をはじめとし、地域のボランティア活動やリーダー研修会などへの積極的な参加を促進する。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ① 校務について偏りの解消、精選、効率化が必要である。 ② 各校務分掌の定期的な会議の開催により、業務の進捗状況の把握や協力体制の強化が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 全職員が柔軟に学校運営に関わる組織体制を構築するため、校務分掌を細分化するとともに、業務の見直しや会議の効率化を図る。 ② ICT を活用し、業務の把握や効率化を図る。

5 中期的目標

<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育活動の改善充実により確かな学力を育み、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等の体験的活動の充実を通して豊かな心と健やかな体を育てると共に、組織的な進路支援体制の構築を図る。 (2) 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識の向上および安全教育の徹底を図りながら、社会の諸課題に対応して生き抜く力を育む。 (3) 学校・家庭・地域社会の連携協力の推進により、社会に開かれた活力と意欲に満ちた学校づくりを図り、外部機関との連携を強化し、地域社会の振興に貢献できる資質能力を育てる。 (4) 持続可能な教育体制を構築するために、学校における働き方改革を推進し、ワークライフバランスがとれる業務改善を促進する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的・対話的で深い学びの実現のための BYOD 端末等の活用（ロイロノート等の積極活用） ② 指導と評価の一体化を図り、観点別評価の充実を推進 ③ ICT 機器を活用した授業実践により、基礎学力向上や探究活動における協働的な学びを促進し、柔軟かつ多様な指導を実現 ④ 教科等を横断した探究活動を実践し、課題解決能力の育成と発表等による表現力の醸成

別紙様式 1 (高)

<p>授業改善の推進</p>	<p>⑤ 生徒による授業評価での授業満足度を 3.3 以上にすることを目標とし、積極的な研究授業や相互授業参観等による各教員のメタ認知力の向上</p>
<p>生徒の希望や目標の実現</p>	<p>⑥ 生徒一人ひとりの持ち味を活かしたキャリアデザイン支援と進路実現に向けた支援（資格取得・大学進学・公務員など）の充実</p>
<p>社会で活躍するための基礎的な力の育成</p>	<p>⑦ 生活マナーや規範意識の向上と安全能力の育成 ⑧ HR・生徒会活動への支援や学校行事の充実 ⑨ 個別面談や定期的なアンケートの実施と教育相談の充実</p>
<p>キャリアパスポートの運用</p>	<p>⑩ 将来を見通した 3 年間の組織的・系統的なキャリア教育体制の構築</p>
<p>社会に開かれた魅力ある学校づくり</p>	<p>⑪ ボランティア活動および地域の活動への積極的参加と地域と連携した探究活動の推進 ⑫ 近隣の学校との教育交流の充実および、産官学福の連携による地域活性化の推進 ⑬ 学校Web サイトの充実や学校案内等を活用し、教育活動の情報を広く発信</p>
<p>働き方改革への取組</p>	<p>⑭ ワークライフバランスを意識した教職員の業務改善と教職員の働き方についての取組を生徒や保護者等へ周知 ⑮ 各校務分掌において Classroom を活用し、業務内容や進捗状況を共有することで会議等の時間短縮</p>